

自転車 の基礎情報



平成29(2017)年3月21日 No. 17

シティ車のタイヤの違い<パンク防止>

ノーパンクタイヤ、パンクに強いタイヤなどをよく耳にしますが、どこが違うのでしょうか。

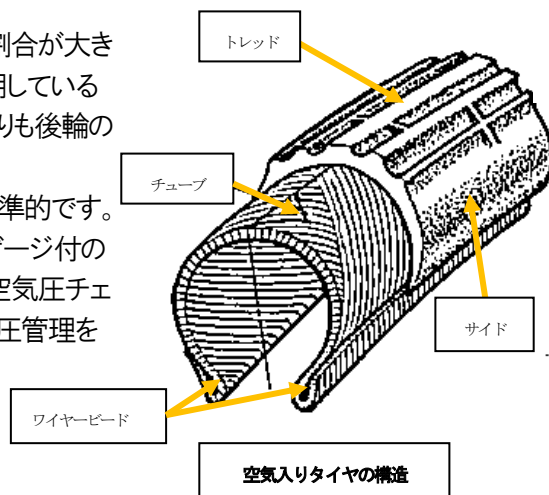
まず、ノーパンクタイヤは、ゴム、ウレタン、樹脂などがタイヤの内側にチューブの代わりに入っています。このため、最大のメリットは空気を入れる必要がなく、穴があいて空気が漏れパンクすることがない、ということです。一方、デメリットもあり、空気入りタイヤと比べて振動を吸収することが苦手です。そして、空気の代わりにゴム、ウレタン、樹脂などが入っているので重くなります。空気入りタイヤも同じですが、ノーパンクタイヤは外側のタイヤや内側のゴム、ウレタン、樹脂などが時間とともにダメージを受け劣化しますので、長く使っていると交換が必要になります。ノーパンクタイヤは素材や形状などが日々進化していますので、パンクしないというメリットは捨てがたいものがあります。

次に、パンクに強いタイヤですが、空気入りタイヤをパンクしにくくしているものです。例えば、尖った細い棒状のものが突き刺さることによるパンクを防止するために、タイヤのトレッドからサイドにかけタイヤの内部を特殊なシートで補強しています。あるいは、段差を乗り越えたときに、タイヤとリムにチューブが挟まれることによるパンク(リム打ちパンク)を防ぐために、タイヤのサイドやワイヤービードの部分を特別に補強し、さらに、チューブの摩耗によるパンクを防止するために、チューブと擦れるタイヤの内側の面を滑らかにしています。このように様々な工夫を施しても、タイヤに空気を定期的に入れ、空気圧の管理をきちんと行うことに勝るパンクに強い空気入りタイヤはありません。

ところで、自転車と乗る人の重さは前輪よりも後輪にかかる割合が大きいため、後輪のチェックはとても大切になります。日常的に使用している自転車のタイヤ表面の模様(トレッドパターン)を見ると、前輪よりも後輪の方が摩耗していることが一目で分かると思います。

最後に、シティ車のタイヤの空気圧は300kPa(3気圧)が標準的です。英式バルブは正確な空気圧の測定ができないため、空気圧ゲージ付の空気入れなどでも正しく表示されません。このため、バルブに空気圧チェック機能をもつアダプターを取り付け、色の変化で日々の空気圧管理をする簡単な装置もあります。

次号は、平成29年4月20日に発行を予定しています。



<発行>

一般財団法人自転車産業振興協会

〒141-0021 東京都品川区上大崎3-3-1 自転車総合ビル4階

電話：03-6409-6922 FAX：03-6409-6868 <http://www.jbpi.or.jp>

